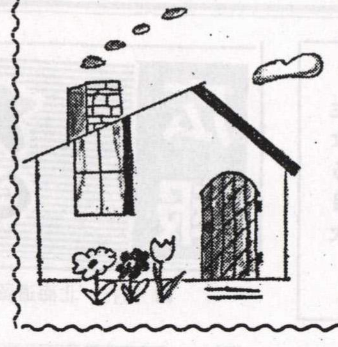
小さな芽は人、家、街づくりを
活発な市民組織づくり

明るい生活 豊かな社會

"豊かな生活をめざして新生活運動を"明るい社会をつくるために街づくり運動を"進めようと、その後も市内各地で「市民組織」づくりが活発に進められています。

とかくこうしたことでは不毛の地といわれる市街地区にこの動きが目立ち、港町、寿町、宮園町などで自主的な胎動を続けています。

それはあたかも、春の野に芽吹く草花のように、自分たちの力で、力強く固い土の壁をつき破つて顔を出した、あの若々しい希望にあふれているではありませんか―。



港、壽、宮園町にも芽吹く やがて花咲く理想郷

市民組織の現状

敗戦の廃虚の中から、一つの芽が、小さな頭をもたげた。ひかげはうすく、風は冷たかつた。灰いろの野づらに、春はまだ遠かつた旧聞だが、ある詩人がうたつたのに

小さくよわい芽が一つ焼け跡の灰をたべく生きていると―。しかしその芽はたくましく伸びていつた。そして、根をひろげていつた。

戦争の破壊と戦後の混乱がもたらしたものは、絶望に以た混迷と、底知れぬ哀愁であつた。しかし、そこに一つの新しい光明への道を求め拓こうとした多くの人々は、その道をお互自身で考えお互の努力でみつけようとしたのです。

この胎動は、新しい「郷土再建」という形で、本市においても、地区住民の自主的意欲の結集によつて、近隣相互の親睦福祉を基盤として、明るい生活環境とその繁栄を高めんとさかんに動きはじめていつたのです。

特に、ここ二、三年に至つては、あらゆる悪条件を乗り越えて、明るい街づくりを目標に、仲間が仲間を呼び、自力新生の気も新たに、自主的市民組織づくりが、急速に高まつて来つつあります。

焼け跡の灰をたべく伸びはじめた一つの芽は、こうして全市民の自主的人づくり、家づくり、ひいては街づくりにまで育つて来たのです。

こうした地域住民の盛り上る話し合いの中から誕生した組織団体は、現在、ざつと一二〇を数え、共に親睦福祉と相互扶助、地域環境の改善、街灯、納税貯蓄、地域青年婦人団体、経済生活改善グループ等、それぞれ異つた方法、手段によつて、充たされない共通の課題、悩みの解決に、意欲的に活動実践されつつありますのが、自主的市民組織の現状であります。

新しい市民組織（自治会町内会、団体等）はこのような社会事情に対処して、やむにやまれない現実の要求から生れでたものと云えましよう。

こうした私たち共同の手によつてできた市民組織は昨日より今日、又明日へど将来の幸福と繁栄をめざす全住民によつて、誰からも指示されるでもなく、青い波のように、逞しく盛り上りつつあります。

市民組織誕生への起因（動機）

今、市内各地域では、近隣住民相互の親睦福祉と地域の振興に、共通の課題解決のために、活発に活動しておりますが、こうした組織団体誕生の動機は、地域社会生活を確保し、向上しようとするためであり、人間関係のうちで、最も強いつながりの一つである近隣関係をもつ地域の住民同志が自主的に集団生活をつくり、共同の力によつて地域社会における充たされない共通の問題解決や、親睦等をはかることにあると思います。

事実、現今の地域社会における住民の社会生活には現実に充たされない深刻にして、切実な問題が山積している。

しかもこれらの問題は、すべて本質的にその全てを政治や、行政に期待するのと、住民自らの手によつて解決するのと二つの道がありましよう。

市民組織の性格

時代は、大きく変つた。人類の平和と繁栄を、無惨にも滅亡へ追いやつたあの恐ろしい戦争中に、国策で統制された当時の町内会は自己の主張、意見すらのべるすきもない重厚な壁そのものであつた。

丁度家と国があつて、近代的な社会という意識が育てられなかつた。むしろ、そういう考えは危険だとおしつぶされてきた。

しかもその家と国の考え方は、古い家族主義を支えにした絶対主義的国家主義というべきものであり、極端なる上意下達一本という当時ならではの時代慣行であつたわけです。現在のような真に民主的近代的時代下はどうでしよう。

共に誰もが自由な立場で、自由な話合をしあつた中から、共通の課題を共同の力で解決し、明るく住みよい郷土をつくるために、自らの意欲が培養されて来ているのです。

このように、市民組織は「お互が、お互のために、お互の力でお互の生活をよくし、自分の住む地域を明るくする。」ことにあると思います。

この自主活動自体が、新しい生活と環境の改善、明るい街づくり、ひいては、市の繁栄に連らなるものであるということから、共に民主的密接な協力連携によつて、明るい街づくりを主体にしていくことが市民組織のあるべき姿と云えましよう。

写真は汐見町での町内会結成総会

市民組織活動のめざすもの

それは市民自らの盛り上る意志と創意により、実践を通じてあくまでも、住民の幸福と繁栄をめざすものの考えに立つべきでありましよう。それなりに市民組織は、運営が簡単でないものがありましよう。

ある禅僧がお化粧の秘訣を説いて、それは「自分の顔の美点と欠点をはつきりとみわけて、その美点を一層よく生かし、その欠点をいかに補うかということである」といわれるのを聞いたことがある。正に「脚下を照顧せよ」と訓えるゆえんであります。

「古いから」とか、「あいつはよそ者だ」、「引揚者だ」とか、あるいは「地域の序列が下だから」といつてそうした新しいエネルギーを持つているような人を、十分活用させないような仕組みは、自立新生の気を阻むこととなりましよう。もつとあらゆる階層より、積極的に参画せしめ、長短相補い、いまみんなの日常生活で、一番脳んでいること、要求していること等をみつけだし、積極的話し合いの中で共同解決する方向に導くことが大切です。

このことが、自分の住む地域組織が、誰のものでもなく、住民のためのものという連帯感が湧き出するゆえんでもありましよう。

市民組織がもたらすもの

前にも触れたように市民組織は、要するに社会の機構が複雑となるにつれて、一人での生活がむづかしくなつてくる。

こうした社会生活の必然性から、地域の人たちが、お互に扶けあいながら、地域社会の向上や親睦等を主たる目的としてつくられ、その活動の過程で、堪えず起るであろう地区内の共通問題を互に解決し、更にある共通問題をどう市政に反映させたらよいか、又、市政の動きが末端まで行き届かざる不便さを考えるとき住民のための組織を通して地域住民の声として市政に反映でき、市民のより一層の福利増進がはかられるということから、地域内は充実振興されると同時に、これが直接、間接的に、市の繁栄にもつらなるものであります。

市に於いても住みよい明るい街づくりを市民と共に、積極的に、推進する意欲から、これが自主的民主的市民組織の育成に努め、傍ら第二回、三回の研究協議を重ね、全市民ぐるみで手を握り合つて、新時代に副つた理想郷建設に、邁進したいものと考えています。

なお新たに組織団体を結成したい。又、現在の組織団体の内容の発展的改善等の意向をもつ地域に対しても、諸般に亘る資料の提供御相談に応ずるべく常に用意を致しておりますので住民の役所として、大いに御利用して頂きたいと思います。

市民組織めぐり 千鳥町親睦會

平和な文教地區を 将来は近隣の組織とも手を結び

高校前のアカシヤ並木をくぐりぬけると、そこに「千鳥町親睦会」がある。

加入者百四十七世帯、約六百二十二名の会員を持つこの親睦会が結成されたのは、五年前の昭和三十一年七月十日だつた。

そこに住む人達は、公務員あり、会社員あり、労務者ありとさまざまであるが"平和な街づくり"をと願う、皆んなの気持ちが、千鳥町親睦会をささえている。

千鳥町は留萌高等学校緑丘小学校と二つの学校を持つ、静かな文教地区であるが、それだけに、住民の親愛と善意をもとにして、精神的にも外面的にも、明るく美しい環境を作ろうとの意欲に燃えている。

会長の細田さんは「愛なくば鳴る鐘や響くニューバチの如し つまり形式のみの親睦から生れた施設や運動であつては、その意味がない。皆んなが共通の話合いの場を作り、各自の平等と自由な気持ちで愛と平和の親睦会にして行きたい」と強調している。

夜、高校へ通う勤労生徒のために街灯を十四灯設けたのも、文教地区を持つ千鳥町親睦会ならではのことであつたが、それとて平和な愛の街づくりという会の精神によるものであつた。

しかし市営住宅や、個人住宅が入りまじり、しかも会員の移動がはげしいため会の運営はともすれば大きなカベにつきあたりがち。だが会員の力は度重なるごとに強く結ばれ、街角にたつ街灯の光も一段と明るさを増す。

毎月三十円という低額の会費で、街灯の運営、共同募金など寄付金、また会員の中で不幸があつたときは見舞金を出すなど、なかなかの意欲経済的な面から会の運営が破壊されるのを心配、黒字を出す程度の健全さも忘れない。

充実した理想郷をめざし文化部、婦人部、衛生部などを設けたり、主婦の料理講習会の開催、児童遊園地の造成、町内会報の配布なども熱心に検討され、一段と活躍が期待されている。

しかも単独の会自体では経済的にも地理的にもその活動に限度があるため、市が積極的に呼びかけている市民の自主的親睦組織及び明るい街づくり村づくりにあわせ更に親睦会のまとまりを強め、他の親睦会とも民主的に手を握り、会館の設置等より高い理想郷作りに大きな意欲を燃やしている。

なお千鳥町親睦会は、付近の元川町の人たちにも広報紙の配布を行うなど、愛の犠牲をはらつている。

（写真は六班の新年総会で会員がそろつたところをパチリ）

あの町このまち

●南町新興会

この程、役員の改選を行い、新役員が次のように決まりました。

会長　川上博
副会長　柄本甚吉
厚生部長小川貞、文化部長星野幸作、厚生副部長橋場孝一、文化副部長平岩義明
監事河部一郎、鹿内香一郎
会計工藤官治、書記二本柳正彦
なお婦人部長は未定

●五十嵐町親交会

新らしい役員が決まりました。

会長　山田辰雄
副〃　木村正平
部長　高原光雄、但野剛
浦出政治、斉藤繁治

●黄金団地親睦会

二十五灯の街灯設置を機会に、地域住民一六〇戸の相互扶助親睦と、地域内の繁栄を目的として、三十五年十一月一日に発足。現役員は次のように決まりました。

会長　加藤彦一、副会長　松山兼二、江本孝子、東藤勲、総務部長梅沢文敏、福祉衛生部長加藤彦弘、会計今野辰雄、田中忠夫、監事吉田千寿、高原外治郎、副部長（ブロック単位）張江敏和、高桑安春、河本哲夫、佐藤年光、山本香一郎、加藤彦弘、米谷政勝

●汐見町町内会

親睦と住民の福利増進のため、五十六名の会員で一月七日発足しました。

会長　白鳥喜三
副〃　松沢豊作、白鳥喜四男
生活改善部長野呂田貞作、同副部長田中月夫、生産拡充部長財津秀蔵同副部長堺清、教育衛生部長三浦礼治同副部長西谷菊太郎、監事本間初太郎、田中貞吉

●港町三丁目親交会

一月二十八日消防署会議室で発足、会員六十名新役員は次の通り

会長　米倉貫一
副同　本井十郎右衛門　佐藤八重
総務委員山本悟朗、厚生委員中浜千恵子、奏由男、阿部チヨ、生活委員酒井清太郎、白石欽一、奥野勝雄、中本栄治、文化委員岩崎久子、佐々木久雄、小林勇治

●宮園町三丁目親睦会
●寿町一、二丁目の一部

それぞれ近く結成予定。

●寿幸会

二月十五日決算総会を開き、現在の大通り商店だけでなく、発展的に地域全般にわたる会の結成を協議。

■係から　あなたの地区の便りをお寄せ下さい。

消防車が通れるように

除雪はみんなの手で

市は40本の市道を除雪
―ことしから三者が別々に―

（開発・土現・市）

除雪計画はどうなつてますか

ことしは、各地とも大雪で、富山県などは列車が不通になるほどでした。留萌も近年にない雪が降りました。留萌市ではどのような除雪対策をたてているのでしようか。

出題者　留萌市宮園町　佐藤ミツヱさん　主婦（32才）

明るい生活

年があけてから、猛烈な吹雪が毎日のように襲い、市民の皆さまには除雪のあと始末で大変なことと思います。

市内の道路は、その性格から、国道、道々、市道の三つにわけられ、それぞれ維持管理されていますが、冬期間の除雪に限り、いままで開発建設部、土木現業所、留萌市の三者が共同で行つてきました。

しかしことしからは、予算の関係や、機械の補充などから、各管理者が独自の計画をたてて行うことになりました。

思わぬ大雪にテンテコ舞い

本年の除雪計画を説明しますと

一、国道は留萌開発建設部が担当し、留萌市を中心にして沼田、羽幌、増毛方面に通ずる国道の除雪を実施していますが、各種の除雪機械が投入され、大きな成果をあげています。また、留萌市内（堀松タイヤ工場～神社下～大通り十字街～税務署）を走る国道についても、毎日のようにグレイダー、ブルドーザーが走り、道路巾八米を確保、両側に積上げられた雪も、一月下旬、二月下旬の二回にわたり機械による積込み運搬除雪が実施される計画です。

二、道々は留萌土木現業所が担当、留萌駅～笠井商店、近藤薬局（十字街）～築港修築事務所（大町）の両側の運搬除雪を実施、交通を確保しております。

三、市道は、市が直接担当市内道路のうち四十本を除雪路線に選定、その性格から次の四種類に区分ブルドーザー一台、トラック二台、労務者延一万六千四十人をもつて計画実施しております。

■A線＝市道幹線で、常時二車線（八、〇米）を確保、機械、人力を投入さらにトラックによる運搬除雪を一月下旬から三月中旬まで実施します。

この計画による道路は

①南大通り（安藤お茶屋～協立物産）
②南山手通り（拓銀～土建協会～留萌小）
③西五号通り（神社下～旭町佐藤商店）

■B線＝A線につぐ幹線で常時二車線（八、〇米）の巾を確保するため、両側積上げ処理を実施します。

この計画による道路は、

①南紀念通り（堀松建築～南岸壁）
②留萌通り（消防署～市役所前）
③南山手通り（留萌薬局～副港橋）
④北七条通り（笠井商店～北農連）
⑤早道通り（留萌駅～副港橋～岡田鉄工場）
⑥北八条通り（北島製粉所～駅前日通）
⑦西二丁目通り（丸西呉服店～留萌自動車運輸～国保東病院）
⑧西五号通り（旭町佐藤商店～留萌中学校）
⑨同（旭町佐藤商店～旭町市営住宅）

■C線＝常時の交通確保の他に非常事態における消防自動車の活動を確保するため、消火栓、貯水槽に通ずる道路を全市地域にわたり、除雪しておりますが常に消防署と連絡、各道路を巡視除雪を行つております。

■D線＝岸壁のようなところで融雪期に道路の雪割りを行い、水産物の運搬に支障のないように計画をたてております。

雪は黄金岬の捨場へ
―こんな協力をお願いします

以上の各道路を毎日のように、ブルドーザー、人力により除雪を実施していますが、四十本もある道路と留萌特有の吹雪のため、ややもするとおくれ勝ちとなりますので、次の点について市民の皆様の御協力を得て、冬季交通を完全に確保したいと思います。

一、屋根や家の周囲の雪を道路上に投雪せず、必ず処理すること。
二、道路上に無断で物を放置したり、炭ガラをみだりに投げないこと。
三、トラック等の車両を道路上に長い時間駐車しない。また冬期間を通じ道路上に車両を放置せず、必ず格納すること。
四、雪捨場は黄金岬に指定してありますので、必らずそこに運搬投雪し、内港や、副港橋上から投雪しないこと。

第18回割増金附定額貯金の発売

毎回好評をいただいている、割増金附定額郵便貯金が今年も2月3月の2月各郵便局から売さばかれます。

特賞30萬円のほか多数の賞金のつけられる幸運の定額貯金を売切れぬうち、早めにお買い求め下さい。

(イ) 1口の預入金額　1000円、(ロ) 特賞A30萬円、B10萬円、1.2.3.4.5等のほかに等外は40円、(ハ) 据置期間　1ケ年
(ニ) 売さばき取扱期間　2月1日から3月10日まで
(ホ) 詳細は郵便局の窓口でお尋ね下さい。　（留萌郵便局）

酪農で"樂農"に
酪農計畫で農家經濟の安定を

昭和三十六年のことしは待ちに待つた私たちの年です。

「うし」といえば、皆さんがすぐ連想するのが、ホルスタイン種という。白黒ブチの乳牛ではないでしようか。

私の祖先は、遠くオランダから輸入され、現在では日本に八十万頭、北海道では十八万頭、そして私たちの住む留萌市では約百頭が飼われています。

働らき盛りの私は、年間約六千～七千キログラムの乳を生産し、一年に一頭の割合で赤ん坊を生み、一生を通じて七～八頭を生む予定ですが、さらに私の良質な堆厩肥によつて畑作物の収穫を高め、いよいよ高令になると皆さんの食膳を賑わす、というように、私の一生は実に涙ぐましい次第です。

かつて冷害の年がありましたが、私の飼い主は、そういう時でも平然とパンと牛乳で、丸々と太つていたそうです。冷害その他の災害にあつても楽しい生活が送ることが出来るとあつて「酪農」ではなくて「楽農」だワイ、といつては私を喜ばしてくれます。

なんといつても、酪農は日本の農業でも、世界の農業でも重要な役割をはたすものだということが、おわかりでしよう。

私の乳一合には、脂肪が約三、七％、タンパク質が三、三％、乳糖四、五％、ビタミン他が〇、五％も含まれる大変に栄養のあるものです。

ところが、皆さんの中には、お鍋から泡になつてこぼれるまで熱く煮る人がこますが、せつかくの栄養分を熱で分解してしまいますから、七十五度ぐらいで、ストーブからおろして下さい。

こうして有益な私たちをドシドシ留萌へ導入しようと留萌市が力を入れ、集約酪農地域の指定を受け、さらに留萌市でも三十五年度から酪農振興計画をたてています。

この計画では、いま留萌市の農家一戸当り二、八頭の乳牛が、五年後には一農家平均四頭（総数三百四十四頭）になるように計画を進め、約六百六十屯の牛乳を生産しようとしているのです。

また、最近の肉の消費増から昨年は食肉用の和牛を二十五頭留萌に入れましたが、今後も年次計画で導入し農家経済の安定をはかろうとしています。

（写真は昨年導入した和牛の群れ）

成人おめでとう

一月十五日、留萌市の成人式が、市内中央シネマを会場に催されました。

ことし成人になる人は、七百二十四人（男三百七十一名、女三百五十三名＝市教委調べ）で、浜野敏江さんの宣言のあと、記念品を贈られ、映画を観賞晴れの式典を終えました。

記念品を贈られる成人代表の松下愛子さん。

消防功労者を表彰

恒例の出初め式が、一月四日行われました。

神社下から消防署前まで消防署、団員、消防ポンプ車を連ねて市中行進をし留萌薬局前に設けられた観閲台で橋本市長らの閲団を受けたのち、消防署会議室で、消防功労者、協力者の表彰式が行われました。

市長の閲団を受ける消防署、団員

市民歌を歌おう

留萌市民歌と市民行進歌を普及するため、一月中愛の鐘で毎朝八時半から放送市民の皆さんから好評を受けました。

この放送は、高橋富男先生の指揮で留小合奏団の伴奏、清水芳春さん（市役所）星野祐子さん（留高二年）それに留小合唱団が録音したものです。

留小音楽室での録音風景

小児マヒもこれで安心

小児マヒ予防注射が、一月二十三日と二十四日留萌市で行われました。

昨年は留萌地方に小児マヒ患者が散発、本年は流行が心配されています。

このため市保険課では、市民から接種希望者を募りワクチンの到着をまつて予防接種を行つたものです。

痛けいれどボクがまんするヨ。